



学ぶため、学校を歩けばこうやって子どもたちが窓からこちらの様子をうかがってくる。「Hello!」と、声をかければ、コミュニケーションが始まるのだ。

写真家・本城直季さんが フィジーに 英語留学に行つて きました。

フィジーといえはのんびり過ごす南の島……。そんなイメージを払拭する英語留学プログラムに本城直季さんが行ってきました。本城さんはフィジーでいったい何を体験したのでしょうか？

photographs by Naoki Honjo text by Hideki Inoue



日本と同じように、フィジーでも少子化が進んでいる。そのために空いた学校の教室を使って英語を学ぶ。また、職をなくした教員の雇用にも繋がっているという。

暖かい国のフィジーで

今。きっかけは、小さな新聞記事です。フィジー政府が新たな観光政策の一環として、英語教育を推進しているという内容でした。費用は20万円ほど。これには2週間の滞在費、渡航費、授業料が含まれます。最近、海外での撮影が増えたため、自分である程度英語を話せば仕事がスムーズになるだろうなあと感じていました。場所はどこでもよかったのですが、いきなりロンドンやニューヨークの学校に行くというのはちょっときついかんと思っています。それだと限られた時間では、街や学校の仕組みに慣れるだけで時間が過ぎてしまいそうです。暖かそうだし、2週間ほど行ってみるかなあという感じでした。それに暖かい国は荷物が少なくてすみますしね。

フィジーって英語通じるの？ とよく聞かれますが、イギリスの植民地だったということもあって、英語は公用語です。その他にフィジー語、ヒンディー語を使用しています。インド人も多いんですよ。ネイティブではない人たちの英語って、ちょっとわかりやすいんですよ。だから、まず英語に慣れるという意味でもフィジーはよいかなと思いました。

授業は小学校で行います。フィジーも少子化が社会問題になっているようで、英語授業によって教員も職を得ているようです。子どもたちと同じ時間に登校します。空いている教室でお昼まで授業。昼食後、午後は2時くらいまで勉強します。1クラス9人くらいなのですが、大人が小学校の教室で授業を受けているのはなんだかおかしかったです。ちょっと残念だったのが、生徒はほとんど日本人だったということです。一応、学校内では「日本語禁止」なのですが、なかなか守れないですね。僕はクラスメイトの

インド人ホストファミリー。フィジー人かインド人ファミリーを選ぶことができるとのこと。「どっちでも楽しそうですよ。僕はカレー好きなので……」と本城さん。

あたたかい人たちに
囲まれて、

東京都生まれ。フォトグラファー。
研究科メディアアート修了。
（ホルモア）が話題となり、
「木村伊兵衛写真賞」を受賞。



「フィジーを選んだ理由の一つは暖かい国ということ。だって、荷物が少なくすみますものね」と本城さん。フォトグラファーはどうしても撮影機材が多いため、個人的な荷物は少ないに越したことはない。英語留学が目的の今回の滞在中も本城さんは数多くの写真を撮った。その貴重なスナップショットをお披露目。「家がごちゃまじりとして、おもしろいんですよ。もともと建物って大好きなんですけれど、言ってみれば写真には、小さくもあたたい暮らしの営みを垣間見ることができるフィジーのデイリーライフが写っていた。」



のんびり英語を学びます。

✈ 03



南の島で英語漬け。
サウスパシフィックフリーバード
South Pacific Free Bird Institute

フィジー政府がバックアップする低価格の英語留学システム。あたたかいホストファミリーの家に滞在しながら、のんびりと英語を勉強したいという人たちに、じわじわ人気が出ています。英語の授業に疲れてもここは南の島。ビーチリゾートに行けばアクティビティはバッチリ。英語が学びたい、ストレスを発散したい、しかも低価格で!! そんな欲張りな人はぜひ!

所在地/東京都新宿区市谷田町2-6-4 電話番号/0120-559-221 ホームページアドレス/http://www.southpacificfreebird.co.jp/ 講師数/30人 生徒数/1クラス10人前後 用意するもの/英語の辞書など 資格取得/なし 開期/長期(4か月~)の場合1・5・9月。短期は随時受け付け 料金/時期・期間によって異なる。ホームページを参照

すから、そういう人たちと接する時間を持てたのは僕にとって貴重な経験でした。

滞在はインド人ホストファミリーの家でした。彼らは流暢な英語を話し、子どもたちも話します。英語は僕より子どもの方がうまいので、あまり話してもらえなかったくらいです(笑)。あたたかく迎え入れてくれて、とてもよい滞在でした。僕はインドのカレーが大好きなのですが、やっぱり毎日インドカレーでした。これもなかなか良かったです。フィジーの人々は家族を大切にします。その生活習慣はフィジーに住むインド人ファミリーも同じで、食事は必ず家族で摂るし、週末は親戚の家を歩き来して親睦を深めます。なんだか、とてもあたたかい風景でした。

結論を言うと、2週間の滞中で英語が飛躍的に上達したとは言えません。ですが、あらためて英語をしっかりと勉強しようと思いました。僕にとっては、その気持ちが生まれたいということがなよりの収穫です。

英語がほんじょうにうまくなるといいな。(5点……すみません)